

<配管使用制限>

1. 配管長・サイズ制限 ◎：標準配管サイズ ○使用可能 △：配管長制限短縮 冷↓：冷房能力低下
・既設配管流用には片道最大配管長と総冷媒量による配管長制限があります。
下記の制限を満たすことを確認してください。

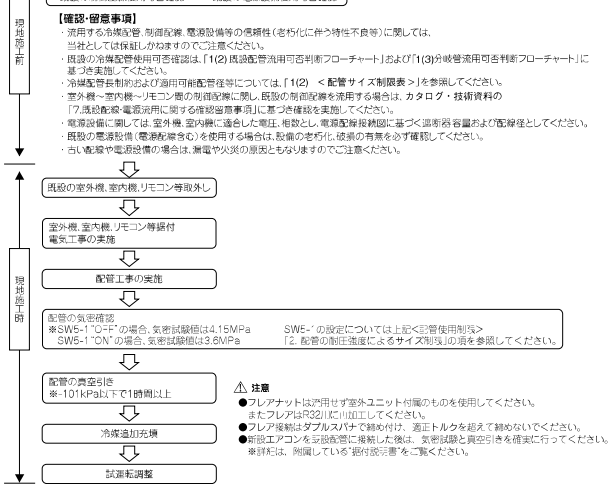
ZP224, VP224 主管1mあたりの 追加チャージ量	0.054kg/m			0.07kg/m			0.12kg/m			
主管 ガス側	φ9.52			φ12.7			φ15.8			
サイズ 添管	φ19.05	φ22.22	φ25.4	φ19.05	φ22.22	φ25.4	φ28.6	φ22.22	φ25.4	φ28.6
可否	冷↓※1 ※2	冷↓※1 ※2	冷↓※1 ※2	冷↓※1	冷↓※1	○※1	○※1	冷↓※1	△※1	△※1
最大片道 配管長	40m※4			60m※4		100m※4		50m※4※5		
チャージレス 配管長	30m			23m			13m			

ZP280、VP280 主音1mあたりの 追加チャージ量	0.07kg/m			0.12kg/m		
主音 サイズ	ガス 流量	φ12.7 22.22 ※1 ※2	φ25.4 25.4 ※1	φ28.6 28.6 ※1	φ22.22 22.22 ※1	φ25.4 25.4 ※1
可否	冷↓※1 熱↑※2	※1	※1	冷↓※1 熱↑※2	※1	※1
最大パイ道 配管長	60m※4	100m※4			55m※4※5	
チャージレス 配管長	30m			17m		

- ※1 配管使用制限を満たさない場合は、既設配管をご使用になれません。
- ※2 主配管長が40mを超える場合は、既設配管をご使用になれません。
- ※3 既設配管の曲げ半径が70mm未満の場合は、既設配管をご使用になれません。
(最寄りの代理店にお問い合わせください。)
- ※4 ユニット内蔵リユースユニットを使用した場合、最大片道配管長は下表の通りとなります。
配管長制限を超える場合は、内蔵リユースユニット以外での配管洗浄が必要です。
(最寄りの代理店にお問い合わせください。)
- | 主管方式管径 | φ19.05 | φ22.22 | φ25.4 | φ28.58 |
|---------|--------|--------|-------|--------|
| 最大片道配管長 | 50m | | 30m | |
- ※5 追加できる最大冷媒量は4.9kgまでです。追加冷媒量が4.9kgを超える場合は液管サイズを下げ
て新設してください。
- ※6 分岐管サイズおよび1mあたりの追加チャージ量はフローチャート内の表1を参照してください。

2. 配管の耐圧強度によるサイズ制限
- ・一部の配管仕様ではSW5-1を“ON”（既設配管に応じた圧力制御）とすることでご使用になれます。
 - ・配管使用制限を満たさない場合は、既設配管をご使用になれません。
 - ・DL2.22以上のO材・OL材の場合、SW-1をONにしてご使用になれません。
 - ・φ19.05以上のO材・O材・OL材の場合、SW-1を“ON”にした場合にのみご使用になれます。

- ・リニューアル対象範囲の確認
- ・既設の冷媒配管使用可否確認
- ・既設の制御配線使用可否確認
- ・既設の電源設備使用可否確認

[illegible]

①洗浄運転前の確認事項

○同封の据付説明書を参考に、以下の内容を確認ください。

入札の 番号	項目	値 察 項 目	チェック
2	冷暖配管工事	<p>ろう付けした場合は、配管に酸素ガスを入らずにろう付けしましたか。</p> <p>気密試験、貫通引きは慎重に行いましたか。</p> <p>配管の断熱材は露点計算が分かる箇所は必ず貼られていますか。</p> <p>配管に「赤テープ」を貼ることは行っていますか。</p> <p>(7)2号配管は必ずワンストップ(パナソニック)にて締めようを入れましたか。</p> <p>配管の増設・欠け、変形はありませんか。</p> <p>冷媒圧二点測定、冷暖配管長さをパネルのラベルにて記入しましたか。</p> <p>湿熱計、酸欠などの電気機器は適正位置の機体を使用していますか。</p>	
4	室内工	<p>最寄階層の暖房は、ユニット間の配管が漏れていませんか。</p> <p>7号配管は内外へ空気を供給されていますか。</p> <p>7号配管には一方向のバルブが取り付けられていますか。</p> <p>室内分岐箱には「キョウダツヤケル」パネルと「HV」型ケーブルが入っていますか。</p> <p>ガス工事は正確な配線（第2種電線）工事が行われていますか。</p> <p>配線の取付け側のネジが緩みませんか。</p> <p>配線はケーブルランプで固定し、端子接続時に外力がかからないようにする必要があります。</p> <p>新設ユニットの取付台を設置してありますか。</p> <p>室内ユニットに配管パネルを取り付ける場合には、化粧パネルの取付け完了が必要です。</p>	

②洗淨滷乾手順

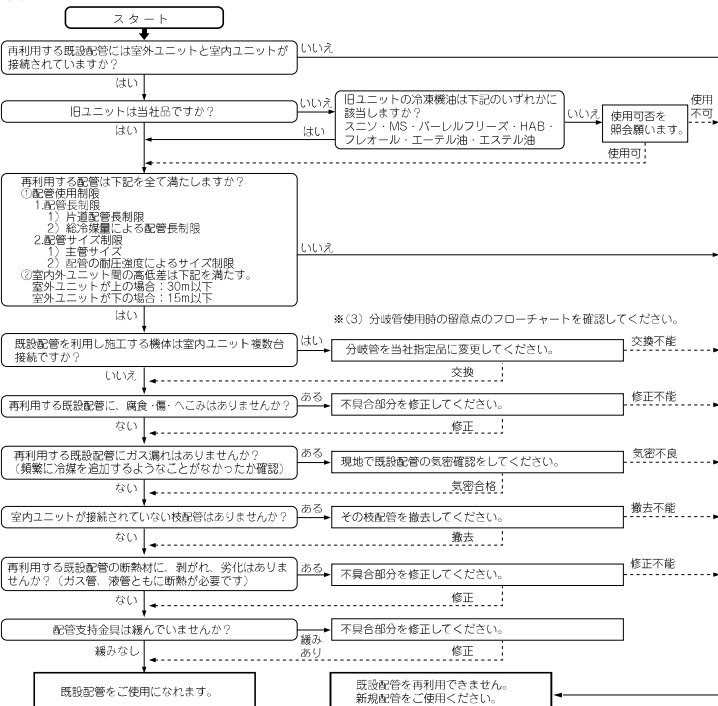
○下記の順番に従ってチェックしながら行ってください。

手順	操 作 内 容	チェック
①	冷暖房停止、電気負荷、室内工事が止まっていますか ①のあとで待機してください	
②	ガス配管作業者を呼んでください。	
③	燃焼動作作業者を呼んでください	
④	③の完了後に 619.05x11.0 を「使用」の場合、SW16 を ON してください。	
⑤	SW16-2 を OFF⇒ON で燃焼動作を確認してください	
⑥	⑤のディップ SW ON で、LED が高速度点滅します。(5秒 ONで5秒 OFF) 「リモコン (RC-4 等) のディスプレイ上には「冷房故障」が表示されます。 「冷凍運転中は冷房運転で行います。リモコンディスプレイ上には「冷房試験運転」と表示されます。」	
⑦	赤 LED が点滅していないことを確認してください。	
⑧	⑦と⑧の両方から冷気が吹いていることを確認してください。(動作に「霜は7分」評価を行います)	
⑨	冷気が吹くのは2分間です。⑨のディップ SW ON 後、圧力確認が完了後約2分間「自動霜溶け (解凍) の動作が実施」(約10分 OFF) になります。動作に「霜溶け」が実施する場合は、ディップ SW16 を ON/OFF にしてください。(約10分 ONで10分 OFFを繰り返します。)	
⑩	冷気が吹いたら終了です。ディップ SW16 を OFF のまま2分間待つエアコン状態になります。 電気配線の確認、圧力確認の後は、エアコン開始を行います。 (冷凍運転開始後は SW16 位置 OFF ⇒ ON の一連の動作が開始します) ⑩の動作の完了と同時にリモコンに「霜溶け」が表示する場合は⑦については、冷凍診断の2段階に、省々外ユニットも「霜溶け」の動作を監視してください。 ⑩の動作完了後は、省々外ユニットの動作確認、冷凍運転開始の動作確認を行います。 ⑩の動作確認が完了している時は冷凍運転の動作確認に過ぎません。	

(1) 既設配管流用時の条件

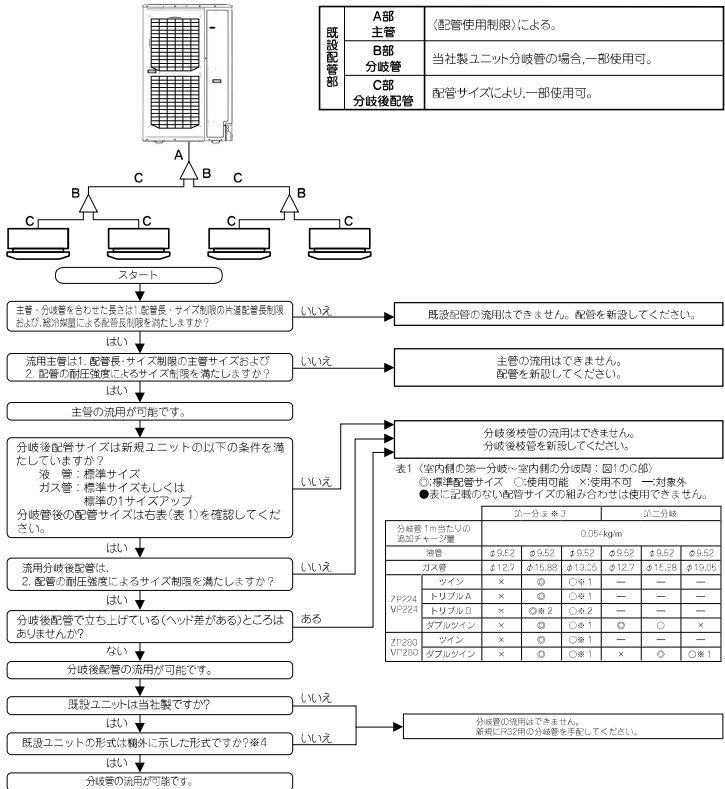
注意	ポイント	配管	この手順書での記載例
クリーン (CLEAN)	(a) 既設配管は既設機器ユニットに接続された状態で取ること。 外れた状態で、互設配管内に海水、空気が浸入し配管内が錆びている可能性があります。 (b) フロン排気処理に注意し、確実に冷媒回収を行うこと。 冷媒を大気中に放出すると、罰則が課せられる場合があります。 (c) 既設配管内の酸化油・異物を除去すること。 内蔵の圧力センサーにより、配管内の配管洗浄確認してください。 変色した冷媒罐(油)や油出しの外漏箇様が検出された場合は「既設配管」または「新規配管」をお願いします。 「冷媒罐油の色相はカタログの表頭を参考ください。」	⇒1. (2)既設配管取付可否判断フローチャート ⇒2. 既設配管取付時の現地施工手順 ⇒3. 洗浄運転	
ドライ (DRY)	(d) 確実な真空引きの実施 -10kPa(-755mmHg) 以下にまでから1時間以上真空ポンプの運転を実施。	⇒2. 既設配管取付時の現地施工手順	
タイト (TIGHT)	(e) 既設配管に腐蝕・破れ・へこみがないこと。また、更新材料の割れ・劣化がないこと。 (f) R32または、R410A用フロンナットの取付がフロン追加の実施。 (g) 配け圧を確認し、気密試験を実施してください。 配け圧力4.15MPa以上 (SW5-1 "OFF" の場合) 規定圧力4.15MPaにて気密試験を行ってください。 配け圧力3.6MPa以上 (SW5-1 "ON" の場合) 規定圧力3.6MPaにて気密試験を行ってください。	⇒1. 冷媒配管工事要領書(07版)を必ず確認してください。 ⇒2. 既設配管取付時の現地施工手順	

(2) 既設配管流用可否判断フローチャート



(3) 分岐管流用可否判断フローチャート

ツイン・トリプル・ダブルツイン機にて既設配管を使用する場合は、下記の該当項目を確認してください。



- ※ 配管仕様を確認し、配管の耐圧強度によるパイプサイズはSW5-16の設置有無を必ず確認してください。
配管の耐圧強度によるパイプサイズはSW5-16 "ON" とある配管をご利用の場合、耐圧強度が不足する恐れ
あるSW5-16 ONにしてください。
- ※ 第2分岐から室内ユニットまでの配管サイズはφ62 (通径) 又はφ63 (ガス管) にしてください。
- ※ 第3分岐の配管サイズは、主幹と同じ通径サイズ(φ62)にしてください。
- ①パイプA=第1分岐から室内ユニットまでの配管長さが3m未満の場合
②パイプB=第1分岐から室内ユニットまでの配管長さが3m以上10m以下の場合
- ※ 4分岐管を用いた場合既述ユニット仕様
FDC-14H2(FDC121)H2以上の機種での分岐数は耐圧不足となります。
- ・一には分岐する数を数えることです。・既述ユニットがFDC-でしるような形式の場合(FDCの後の"P"または"P"がない形式、既述FDC125H8A)、
分岐数は両端までです。R32用の分岐管を使用してください。(分岐管にナフスが貼られていないため内径確認が困難な点に不良となります。また耐圧不足となり